

令和6年11月定例会 文教厚生委員会  
令和6年12月19日（木）  
〔委員会の概要 こども未来部関係〕

立川委員長

ただいまから文教厚生委員会を開会いたします。（13時03分）

長池委員

本来なら部局からの説明になるんですが、委員会の本題に入る前に、まず、私事ですが、先日の12月13日の文教厚生委員会におきまして、教育委員会の教員の給与に関する私の質問の中で、一部、誤解を招くおそれのある発言がありましたので、該当部分の取消しをお願いしたい、各委員の皆さんの御了解を得たいと思います。

該当する部分は事前にお示しさせていただいたとおりでございますので、何とぞよろしくをお願いいたします。

立川委員長

ただいまの長池委員からの申出を許可することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

それでは、議事に入ります。

これよりこども未来部関係の調査を行います。

この際、こども未来部関係の追加提出予定議案について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【追加提出予定議案】（説明資料（その3））

- 議案第24号 令和6年度徳島県一般会計補正予算（第7号）

【報告事項】

な し

臼杵こども未来部長

それでは、11月定例会に追加提出を予定しております案件につきまして、文教厚生委員会説明資料（その3）により御説明を申し上げます。

今回御審議いただきます案件は、令和6年度徳島県一般会計補正予算案でございます。

3ページを御覧ください。

一般会計歳入歳出予算について、補正総額は、総括表補正額欄の最下段に記載のとおり1,800万円の増額をお願いしておりまして、補正後の予算総額は、その右の欄のとおり151億9,149万4,000円となっております。

補正額の財源内訳につきましては、括弧内に記載のとおりでございます。

次に、課別主要事項につきまして、御説明申し上げます。

4 ページを御覧ください。

青少年・こども家庭課でございますが、母子福祉費の摘要欄①、アのこどもの居場所持続応援事業では、物価高の影響を受けているこども食堂の持続的な運営体制の構築に向け、ネットワーク強化や食材調達先の開拓につながる取組を支援するための経費として1,800万円を計上しております。

青少年・こども家庭課の補正後の予算総額は39億5,491万7,000円となっております。

以上が今定例会に追加提出を予定しております案件でございます。

なお、報告事項はございません。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### 立川委員長

以上で説明は終わりました。

これより質疑に入りますが、質疑につきましては、追加提出予定議案に関連する質疑にとどめたいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

また、先ほど開会された議会運営委員会において、追加提出予定議案については本日の委員会で十分審議の上、明日の本会議においては委員会付託を省略して議決することが決定いたしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

#### 長池委員

今、追加の提案があったということで、こども食堂が中心になると思うんですが、具体的な中身であったり事業内容を御説明いただけたらと思います。

#### 原田青少年・こども家庭課長

ただいま長池委員より、今回の事業の内容等につきまして御質問を頂きました。

こども食堂につきましては、民間の方々の御努力、行政からのお力添えも頂きながら、着実に広がりを見せているところでございます。

ただ、物価高騰の影響もございまして、その運営の厳しさというところで、お声を聞いているところでございます。

このような中、先ほど部長からも説明がありましたとおり、こども食堂の持続的な運営体制の構築に向けまして、こども食堂のネットワーク強化、食材調達先の開拓につながる取組を御支援できればと考えているところでございます。

具体的な事業の中身といたしまして、ネットワーク強化につながる取組の支援としましては、例えば、複数のこども食堂の運営者が地域で持ち回りで開催することへの支援のほか、共同での食材調達、地域でまとまったPRイベントの実施、また、食材や資機材を共同で保管する地域のロジスティクス・ハブの拠点を担う倉庫の整備。食材調達先の開拓につながる取組の支援としましては、外部団体からの助成金の獲得に向けた講習会の開催や日々の活動、寄付者から頂きましたお名前を記載いたしましたリーフレットの作成などを通じまして、PR活動などの支援をしていけたらと考えているところでございます。

このほか、食材を有効活用したレシピや時短調理など、これまでの運営費の効率化にもつながる取組、また、子供への学習支援、食育など体験機会を確保する取組にも幅広く対応したいと考えているところでございます。

今回の緊急支援を通じて、民間主体の取組の促進を図ってまいりたいと考えているところでございます。

#### 長池委員

徳島県のこども食堂は、全国で割と後発的な位置だったんですが、一気に増えまして、もう今、150か所から160か所あるということです。

コロナのときは大変だったみたいです。集まるなという指令の中で、子供に来てもらってというこども食堂ができなくて、お弁当を配ったりとか色々工夫しながら数も増えていって、やっとコロナが明けて、子供たちと直接触れ合えるというか、みんなに寄ってもらっています。

それと、この物価高騰がありまして、食材がない、特にお米のときは相当悩んだそうでございまして、こども食堂はそういった荒波にもまれながらきておるわけです。

そもそも、緊急支援ということで、これまでも多少はそういう支援をしていたと思うんですが、そういった既存予算の支援状況と併せて、今回の緊急支援はどのようなスケジュールでやるのか、そのあたりも含めて御説明いただけたらと思います。

#### 原田青少年・こども家庭課長

長池委員より、既存予算でのこども食堂への支援の状況について御質問を頂きました。

今年度のこども食堂への支援につきましては、こども食堂開設運営サポート事業を実施させていただいております。

こちらの事業につきましては、食育活動やこども食堂同士が連携したイベントの支援を実施してございます。

現在の支援状況としては、こども食堂の立ち上げやイベントの準備などで、年度途中からも随時、補助金を申請していただけるように、今年度は3回の募集を実施し、延べ72団体から申請を頂きまして、順次、交付決定させていただきながら執行を待っている状況です。

我々といたしましては、こうした支援のほか、今回の緊急支援によりまして、厳しい運営を強いられているこども食堂をしっかりと下支えできるように取り組んでまいりたいと思っております。

あわせて、今回の提出予定案件の予算案のスケジュールについて御質問を頂いておりますが、こちらにつきましては、今回、予算案ということで、可決いただくことができればというところで答弁させていただきます。

こども食堂のニーズも踏まえた最終調整ができ次第、可能な限り早期に募集をスタートしたいと考えております。

なお、募集に先立ちましては、助成の詳細な内容でございまして、助成対象期間を補正予算の成立時から5か月取るなど、事前にアナウンスさせていただきまして、こども食堂の運営の方が補助金の活用を具体的にイメージでき、安心して継続運営ができますよ

う、事前周知にも取り組んでまいりたいと考えております。

長池委員

こういった予算が付くのは有り難いことだと思います。

さっき話したコロナのときとかも、いろいろな支援がある中で、県から物資を頂いたとか、感謝の声もたくさん私のところに届いております。

また、今回の緊急支援も、そういった物価高騰のための補助はするんでしょうけれど、やはり感謝の声と同時に、ちょっと申請の仕方がややこしいとか、よく分からなかったとか、そういう声も若干あったりするんですが、どうなんですか。

大体、こども食堂だけじゃなくて、県のそういう申請は割とたくさん書いたり、何回も来たり、書類を取り寄せたりと面倒なところがあるんですが、そのあたりの改善は考えられているんでしょうか。

原田青少年・こども家庭課長

ただいま長池委員より、補助金の申請書の簡素化につきましての御質問を頂きました。

今回、こども食堂の申請に当たりまして、補助金の申請ですので、事業の原資が国費や県費の公金という性格である以上、事業の目的や効果などの内容を審査するため、また、透明性を持った運用が重要であることから、こうした事項につきましては記載いただく必要があると思っております。

一方で、委員がおっしゃるように、こども食堂に関わっている方々は、日々の本来業務の合間を縫って、子供たちのためにボランティアでこども食堂の運営に取り組まれているというお声が我々にも届いてございますので、申請書の簡素化については検討を進めたいと考えております。

具体的にはこれからでございますが、例えば、こういった申請書における記述の部分を選択式などに改めてチェックを入れていただくような形で、事業の中身を簡素化させていただいたり、また補助金の申請が始まる際には、我々県職員が説明会を開くなど、補助金の性格や趣旨をしっかりと説明させていただき、意思疎通しながら、補助金の申請について、簡素化や出しやすさなどについても努力したいと考えております。

長池委員

分かりました。

こども食堂を何もないところから始められた方もいれば、県の補助どころか、まだこども食堂という言葉すら認知されてないときから始めて、今も続けていらっしゃる方もいますし、ここ最近になってやってみようかということで仲間を募って始められる方もいらっしゃいます。

いろいろなんですが、ベースとしてはボランティアや子供たちに対しての思いでこども食堂をやられている方がほとんどです。

ただ、大分数が多くなってきて、ボランティア同士って案外、やり方が一つ違うと気が合わなかったり、ややもするとやり方が違う団体に対して攻撃したりとか、ボランティアというのはよくあるんです。掃除のボランティアであったり、配布のボランティアであつ

たりと。

また問題発言になったらいかんので、慎重にしゃべっているつもりですが、こども食堂に関しては数が増えてきておる中で、これから継続して、本当にそういう子供たちの置かれた環境を少しでも良くするための居場所という意味で、徳島県においてはどういう形がベストなのか。今はこども食堂ネットワークなどが汗をかいてくれてますが、果たしてそこだけでまとめ切ることができるのかという問題もあります。

こういったサポートや補助金は非常に有り難い一方で、そういったこども食堂の未来、それもそんな遠くない未来の理想の形も模索していかなきゃいけないと。

やっている方は全て善意の思いでやっているわけですから、できれば、そういった善意の方が苦しまないようなやり方や申請など、いろんな面で悩んだり苦しまないように、本当に子供たちのことを、ひいては地域のことを考えて取り組んでいただいている方ばかりでございまして、そこを外さないように。

県は補助金を出しますというだけじゃ駄目だと思うんです。それはもうただの言い訳のお金でしかないんで。少なくとも、そういった町の善意の灯を広げるような未来像を共に考えていきたい。私も結論がないんでこれ以上は言えませんが、その部分を是非、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

立川委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上でこども未来部関係の調査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（13時20分）